

総務常任委員会の記録

(ふるさと創生課)

招 集 年 月 日	令和6年3月5日(火)
招 集 の 場 所	松野町議会議場
開 会	3月6日(水) 午前10時10分
閉 会	同 上 午前11時31分
出 席 委 員	山石 恭助、山崎 匡、加藤 康幸、森岡 健治、赤松 紀幸、 安西 博文、山田 寛二
欠 席 委 員	
付 議 事 件 説 明 の た め 出 席 し た 者 の 職 氏 名	町長 坂本 浩、副町長 八十島 温夫、 課長 井上 靖、課長補佐 石田 和弘、課長補佐 土居 孝二郎 係長 神谷 由佳、主事 吉原 宏樹
職 務 の た め 出 席 し た 者 の 職 氏 名	議会事務局長 大谷 吉廣、書記 岡崎 智恵子
付 議 事 件	1 議案第12号「令和6年度松野町一般会計予算」

山石委員長	<p>議案第12号「令和6年度松野町一般会計予算」、ふるさと創生課所管分の審査を行います。</p> <p>担当課長に説明を求めます。</p>
井上課長	<p>令和6年度ふるさと創生課業務計画のうち、総務常任委員会該当分についてご説明いたします。</p> <p>別冊の「令和6年度業務計画」の7ページをお開きください。ここでは、本委員会の所管となっている企画分野について、ご説明いたします。</p> <p>ただ、ふるさと創生課において、企画分野と商工観光分野の業務は密接に関連しておりますので、説明が若干触れることをあらかじめご承知おきください。</p> <p>(業務計画説明)</p> <p>続きまして、議案第12号 令和6年度松野町一般会計予算のうち、歳入該当分、歳出2款総務費のふるさと創生課分について説明いたします。まずは予算書にて、予算計上の概略を説明させていただき、その後には抜粋とはなりますが、お配りしている資料にて、事業ごとにご説明させていただきます。</p> <p>予算書の43ページをお開き下さい。</p> <p>2款、1項、7目企画費の歳出予算額は277,217千円で、前年度比26,165千円の増となっています。</p> <p>1節報酬には、まちづくり委員会の委員報酬や、地域おこし協力隊1名分の報酬を計上しております。なお、この地域おこし協力隊の関係する手当や活動に対する旅費、その他経費一式を企画費に計上しています。</p> <p>7節報償費には9,181千円を計上しており、その内訳は、森の国まつの応援団に係る賞品費、景観審議会等委員謝礼、地域公共交通会議委員謝礼のほか、定住促進条例に基づく結婚祝金や出産祝金、マツノイズム高校事業協力者謝礼等を計上しております。なお、移住定住施策については別途資料にて後程説明いたします。</p>

8節旅費では、各委員会の費用弁償のほか、移住促進事業、地域おこし協力隊の募集活動に係る費用弁償や普通旅費、移住者情報やふるさと納税の推進、企業情報収集をはじめ、様々な部門でのネットワークづくりに資するための関西圏域愛媛県人会交流事業や、森の国まつの応援団に関する費用、人材育成事業であるマツノイズム高校事業での旅費等を計上しており、その財源として、県補助金や過疎債のソフト事業分と特別交付税を充当しています。

10節には各種事業に要する需用費1,166千円、11節役務費には通信運搬費等に1,298千円を計上しております。

続いて、12節委託料には32,236千円を計上しており、その内訳の主なものは、総合戦略策定委託料、DXによる関係人口創出事業委託料、ふるさと納税管理業務委託料、空き家診断委託料、まちなか交流施設の実施設計委託料、集落点検委託料、松丸高校事業に係る専門家のアドバイスや運営の補助など総合的にサポートしていただく、未来の大人応援プロジェクトアドバイザー業務委託料などを計上しております。

なお、このアドバイザー業務委託料につきましては、その財源として全額を国の特別地方交付税交付金にて充当することとしています。また、ふるさと納税に係る管理業務委託料のなかには、返礼品の費用も含まれております。

また、新総合戦略策定と、DXによる関係人口創出事業、集落点検事業、ふるさと納税事業、まちなか交流施設の実施設計、マツノイズム高校プロジェクトについては、別途資料にて後程説明いたします。

次に、13節使用料及び賃借料985千円につきましては、高速道路通行料や渡船使用料のほか、地域おこし協力隊や移住関係の各種借上げ料を計上しております。

次に、17節備品購入費は、地域おこし協力隊事業に係る、パソコンの周辺機器の購入費用を計上しております。

次に、18節負担金補助及び交付金の主な内容といたしましては、

宇和島地区広域事務組合負担金158,564千円を計上し、詳細な内容については別途資料に記載していますのでお目通しください。

そのほか、JR予土線の利用促進施策を推進するため、宇和島市、鬼北町、松野町で構成する予土線利用促進対策協議会負担金に800千円、また、住民と行政の協働のまちづくりに対する事業として、協働のまちづくり事業補助金に1,000千円、高齢者外出支援事業補助金に2,064千円、地域づくり交付金に5,000千円を計上しております。

移住定住関連の補助金、交付金につきましては、定住住宅建築奨励金6,000千円、住宅リフォーム補助金に3,000千円、お試し移住者宿泊費補助金に350千円、移住者住宅改修支援事業費補助金4,400千円、移住促進空き家改修事業費補助金に3,000千円、空き家活用移住者住宅整備補助金3,000千円を計上しています。

そのほかの主なものとして、特定地域づくり事業協同組合補助金7,125千円、愛媛県・市町DX推進会議負担金1,771千円高校生等鉄道・バス通学定期券購入補助に4,500千円を計上しております。高校生等鉄道・バス通学定期券購入補助事業については、後ほど別途資料にて説明いたします。

続いて、24節積立金20,001千円は、ふるさと応援基金積立金であります。

予算書49ページをお開きください。

15目コミュニティバス運行費は17,174千円、前年度比351千円増額となっております。主な予算計上内容は、コミュニティバス3台分の経費として、10節の需用費3,829千円、11節役務費224千円、12節に自動車運転委託料として13,024千円、13節使用料及び賃借料31千円、26節公課費に66千円を計上しております。

予算書55ページをお開きください。2款5項1目統計調査費は972千円、前年度比674千円の増額計上となっております。令和6

年度の主な統計業務は、学校基本調査、全国家計構造調査の実施、農林業センサスと、国勢調査の調査区設定と準備、統計調査員確保対策事業を予定しています。

それではここで、別添資料にて事業ごとの視点で説明いたします。

(別添資料にて個別事業を説明)

次に、これまでの歳出予算に係る歳入の主なものについて説明いたします。

予算書19ページをお開きください。13款、1項、1目総務使用料の3節にコミュニティバス運賃収入576千円を計上しております。

予算書22ページ、14款2項1目の2節にデジタル田園都市国家構想交付金として、2,424千円、また、特定地域づくり事業推進交付金として3,562千円を歳入計上しております。

予算書25ページをお開きください。15款2項1目に、1節企画費補助金として、移住者住宅改修支援事業費補助金2,200千円、えひめ人口減少対策総合交付金797千円、同じく2節、コミュニティバス運行費補助金は生活交通バス路線維持・確保対策事業費補助金3,144千円で、民間の生活バス廃止路線の代替バス等の運行が補助対象であり、町コミュニティバスの運行欠損がこれに当たることから補助金が交付されるものであります。

予算書27ページをお開きください。15款3項1目のうち、4節統計調査費委託金947千円は、各種統計調査に係る委託金であります。

予算書30ページをお開きください。17款1項2目総務費寄附金には、ふるさと応援寄附金20,000千円を計上しております。

18款2項3目ふるさと応援基金繰入金には、ふるさと応援基金より一般会計への財源充当として22,735千円を計上しております。

続きまして34ページをお開きください。21款1項1目過疎対策

	<p>事業債のうち、ハード事業分では、宇和島地区広域事務組合負担金として、1事業に1,800千円、まちなか交流拠点施設整備事業に3,100千円、ソフト事業分では、定住促進事業15,400千円、協働のまちづくり推進事業6,000千円、森の国応援団支援事業1,902千円、関西圏域愛媛県人会交流事業729千円などの各種事業の財源を充当しております。</p> <p>以上でふるさと創生課分の説明を終わります。</p> <p>よろしくご審議を賜り、承認いただきますようお願い申し上げます。</p>
<p>山石委員長 山田委員</p>	<p>担当課長の説明が終わりました。委員からの質問を許します。</p> <p>ふるさと納税についてちょっとお聞きしたいと思います。</p> <p>先ほどの説明で今のところは1,000万以下というか、1,000万に達してないという、ちょっと報告あったと思うんですけど、令和4年度は600万ちょっとやったというふうに私認識してるんですが、その中で、委託料がですね予算の委託料なんですけど、913万7,000円ということで、1,000万に対して900万ということであれば、納税の何かな、プラスのほうはほとんどないかなというふうに数字的には見てるんですが、今年も1ヶ月しかありませんので、その1,000万に達するんか、大幅に超えるということはちょっと難しいとは思いますが、去年はキョクヨーさんとの提携で、カニカマですかね、返礼品というのと言われてましたけど、その辺の効果も含めて、この1,000万を超えて、もっと2,000万、3,000万にするための施策というか、そういうことをしていかなければ、数字がプラスにならないような感じかなというふうに、受けたんですが、そこら辺の今後の見通しというか、方策がありましたらお答えを頂いたらと思います。</p>
<p>井上課長</p>	<p>今年度913万7,000円の委託料を組んでいるんですが、ふるさと納税の全体の立てつけで2,000万ふるさと応援寄附金を集めるってことを予定しております。</p>

そのうちの委託料が913万7,000円ということです。

御質問にありますように、どうやって増やすかということが1番肝心なところなんです、私たちもいろいろところで増やしてきた市町の方にお話を聞きました。専門家の方にも話を聞いております。

やっぱり1番大事なのは、1番最初は、徹底的に知り合いの方、ネットワークを広げていく。ここが肝心だとおっしゃっていただきました。

松野町としましても、今こういった資料を作ってますね、職員の皆さんからまず知り合いの方、紹介してください。そこから始めていきたいと思います。

また、議員の皆様におかれましても、知り合いの方、ぜひとも御紹介してください。

その方に対して、松野町のこういった施策を応援してくださいといった内容や、返礼品としてこういうもありますよっていうような御紹介をしてまいりたいと思いますので、まずはふるさと納税を増やす一つの大事なキーワードであるネットワークの拡大というところで、ぜひともお力添えをお願いしたいと思います。

そのほかやっぱり増やす、やっぱり品ぞろえ、というのも当然重要でございます。また価格の優位性も大事です。見栄えも大事です。ブランドも大事です。

これはふだんお店を選ぶ、内容と一緒にですね、こういったところ、しっかりと写真をよくしていったりとか、商品を開発していったりとか、松野町にほかにいいものはないかとか、しっかりとですね、生産者ともつながりながら品ぞろえを増やしていく。そして出口を広げていく、そういったところ取り組んでまいりたいと思いますので、是非御理解頂いたらと思います。

今年は900万円、913万7,000円の委託料を組んでおりますが、ふるさと応援寄附金入ってくるほうがまず2,000万円という考えを持っております。

山 田 委 員	<p>いろいろ取り組んで頂いているのは私も承知してはありますが、なかなか現状的に難しいということやと思います。</p> <p>ふるさと創生課で取り組んで頂いておりますが、やはり町を挙げてというか、我々議員も、できることは協力していかないのかなというふうに思っていますし、何とか以前に安西議員もふるさと納税のこと言われましたが、やはりよそではかなり成功しるところもありますし、そこと同じことはできないかもしれませんが、やっぱり松野町独自のやっぱ方法をいろいろ模索しながら、何とか2,000万を達成できるように我々も協力できることはしていきたいと思っておりますので、また頑張ってください。よろしくお願ひしたいと思っております。</p>
山 崎 委 員	<p>まず定期券の補助という高校生の、私も一般質問した内容でして、手厚く補助等をしていただく。予算書の中ではそういう形になってるんでありがたいなというふうに思っております。</p> <p>前ほど御質問したときに1万円の補助のことを、途中経過やったんでちょっと報告していただいたと思うんですけどその点、どういう率だったのか、数だったのかっていうのを一つお聞きしたいのと、もう1点、マツノイズムの高校のプロジェクトの件なんですけれども、高校生っていうのは当然ながら3年で卒業していくわけですし個人的にそういうことが興味がある高校生があつて積極的に参加されているところはずごくありがたいことなんでしょうけど、今後ですよね、継続的にこういう企画をしっかりとやっていくことができるのかどうか、今後のマツノイズム高校プロジェクトのことについて何か、プラン的なものとか、そういうものがあればお聞かせしていただいたらと思います。</p>
井 上 課 長	<p>まずは定期券補助の令和5年度中における状況を申し上げます。</p> <p>12月末現在で31人の方が定期券補助申請していただいております。間もなく期限になりますので最後に、また少し出るのかなと思っております。</p>

2番目に、マツノイズムプロジェクトなのですが、すいません、お配りした資料の中にも、14ページをお開き頂いたらと思います。

高校生たち3年生で卒業して就職や進学で松野町を離れる機会も多いと思います。

どんどんすごろくのように入れ替わっていかなくては当然なりません。2月3月のところを見ていただいたらと思いますが、リクルート活動がしっかりと活動の中に入っております。

新しい新入社員を迎えるような活動も高校生たちは取り組むようになっております。

今度ですね、4月4日に高校生たちは一般社団法人の総会をやる予定を今考えているようです。

その中では、新しい新入社員ですね、いわゆる新入社員も入れての総会に予定しているようです。当然3年生になりますと、一般社団法人を、理事とか、社員を抜けます。ですが、持続的に続いていける方法を高校生たちがしっかりと考えております。

つい先般も沖縄県の西原町っていうところで、10年間、松野町のマツノイズムプロジェクトと似たような活動をしている高校生たちがいます。

ここはまだ法人化はしてないんですが、そこも新しく入ってくる子の獲得の活動っていうのをしっかりとやって、10年間続いているっていうことを、高校生たちは、意見交換ウェブとかで意見交換して学んだようです。

まずはしっかりと自分たちが町のために何ができるのか、町のために何が恩返しできるのかっていう活動をしながら、魅力ある活動を展開して、新入社員が入って来てくれるような活動っていうのも合わせてやっているようなことを聞いております。

活動自体もですね、いろいろと住民の皆様にも浸透をしてきたようで、宇和島鉄道100周年記念事業で、デザインとか頼んで頂いたり、いろいろな場面で文書を書かせていただいたり、それぞれ高校生たち

山崎委員	<p>がそれぞれが持っているノウハウとか、能力といいますかスキルを住民の皆様も、発揮させていただける場を設けてもらってますので、地道な取組ではございますが、将来Uターンして帰ってくる大人をですね、しっかりと高校生のうちに、地域のことを学んでもらって、成長してもらえるように、行政としては後ろから支えてまいりたいと思っております。</p> <p>内容については理解ができたんですけど、その31人申請の31人という部分なんですけども、率とかそういう部分で対象者の割合とかっていう部分でどういうふうに判断されとるのかお聞きしたいのと、もう一つですね、マツノイズムのこれ提案なんですけども、当然、一般社団法人ということだろうと思うんで、卒業された方、OBとして関わってもらえるような形で、会社でしたら社外取締役とか相談役とか、そういうあて職というわけではないんですけどそういう関わり方ができると思うんでそういう、卒業されたOBの方も含めた、なにかしら携わってもらえるような仕組みというの、ぜひ提案していただいたらというふうに思います。</p>
井上課長	<p>申請状況、先ほど言った31人で出しますとですね。対象者74名と、私たちは推測しておりますが、そのうちの31名ですから、率としては41.9%です。</p> <p>申請、もう少し、本来は私たちも全員申請してもらいたいのは当然でございます。</p> <p>何で伸びなかったかなっていうところも検証しなければならないと思っております。</p> <p>わりあい提出する資料がですね、たくさんございます。領収書を出していただく、学生証を出していただく、そもそも平日にしか申請ができない。そういったところがありまして、思いのほか伸び悩んだのかなと思っております。</p> <p>周知のほうは、駅で高校生たちが実際に高校に行くJRの列車2本をとらえて、その時に駅に行きまして、もうチラシをしっかりと配ら</p>

せていただきました。

そのチラシで周知をしたわけなんですけど、それでも伸びなかったというところがございます。

チラシの中にアンケートも入れて、Webでアンケートができるように回答ができるように、アンケートもしたんですが、その中ではやっぱり1万円だけど、手続きが煩わしいという回答もあったりですね、定期購入の金額がまちまちなのに、定額1万円なのでその辺り考慮してほしいとかいう意見もあったことは確かです。

そういったところで、今回の制度設計、拡充の制度設計はさせていただきました。

今年度締切り3月末になっておりますので、3月末になってますので、いま1度、周知を図っていきたいと思っております。

続いてマツノイズムプロジェクト、卒業した高校生たちどうなるのかというところなんですけど、実は、このマツノイズムプロジェクトを立ち上げて、ひとつ副次的な効果がありました。

というのが、高校生たちが頑張るなら俺たちも頑張るよっていう世代が実はいました。

それは、松山にいる愛媛大学とか、松山大学とか、聖カタリナ大学とか、東雲大学とか、そういった松野町出身のそういった松山にいる学生たちが、俺らもやろうということで、松野町学生地域おこし協力隊というサークル、コミュニティを作ってくれました。

全部で20名ほどいるっていう話を聞いてますが、その中の特にコアメンバーの8人ぐらいは再々松野町のいろんなイベントに来て、一緒にいろんなことを考えてもらってます。

町なかで教育委員会主催で町なかのワークショップ、どうしていかというワークショップをしたときも、その大学生たちはワークショップのメンバーに入って一緒にいろいろ考えてもらいました。

そういった新たな世代で新たなコミュニティ、松野町にないけど松野町との関係人口を保ってくれるコミュニティができたということ

	<p>はすごくうれしかったところです。</p> <p>今回、この松野イズム高校の生徒たちが卒業したら、そういった次の大学のそういった組織に入っていて、継続的に、松野町と関係を保ってもらいたいと思います。</p> <p>これ今松山しかありませんが、今後、関西とか関東とか、ぜひともそういったところにも、学生たちが自主的にそういったサークルを作っていたらうれしいなと思ってます。</p> <p>先ほど、説明したDXによる関係人口をつくるアプリ、そういったものをですね、そういった呼び水になるような仕組みだと思っておりますので、しっかりとそういった核のいろいろな施策を連動させながら、関係をずっと保っておく。で、Uターンして帰ってきてもらう、こういった循環をつくってまいりたいと思っております。</p>
山 崎 委 員	<p>答弁は要らないんですけども、最後にやっぱり49%っていう数字はやはりちょっと思った以上に少ないというのは私の感想でして、やはり告知の方法とか、郵送で送るなり、今回、金額も多くなるのであれば、ちょっと告知のほうをしっかりと考えていただいでできるだけ全員の方にそういう申請をしていただけるような取り組みをぜひお願いして、私の質問は終わります。</p>
安 西 委 員	<p>お祝い金についてであります。</p> <p>結婚祝い金は10万ぐらいでいいだろうと思います。</p> <p>結婚されても、子供を出産されない世帯もある。</p> <p>結婚の祝い金は10万ぐらいでいいと思いますが、子供を産んで頂いたところのお祝い金ですね、どうしてもこのままではやっぱり子供を産んでもらわないと、人口がだんだん減ってしまうということで、この際第一子からですね、100万円をあげる。100万じゃ終わらんです。100万あげてすぐ転出されたら何にもなりませんので、1年10万ぐらいずつですね、分割、そうしたらおってもらえるやないですか10年ぐらい、そういう思い切ったことをやって考えていただくようお願いしたいが、町長いかがでしょうか。</p>

坂 本 町 長	<p>少子高齢化、特に少子化対策というのはもう県下も含めまして松野町でも優先しなければならないところなんです、松野町の出産祝い金、県下でも、言うたら突出して手厚い内容なんですよ。</p> <p>当然、財源に余裕があれば、ますます拡充はしたいと思えますけれども、今の財政の状況等を勘案して、今の松野町の財政状況体力には、これが一生懸命かなという気はしております。</p> <p>ただ、一つの頼みの綱はふるさと納税でございまして、あれをしつかりやることによって、例えば納税額が1億円獲得できればそのうちの5,000万は、町のほうでそういった施策に使えるわけでございますので、そういったものをまず確保を目指していきたいと思えます。</p> <p>先ほど課長が申し上げましたように、取りあえずその呼び水として、私たちの知っている町外に住んでいる方から始めようと思っております。</p> <p>職員に対しても、今1人当たり5人ぐらいは紹介してくれと、こっちからお願いの文書を送るからということにしておりますので、是非、議員の皆様も、5名と言わず10名ぐらい町外の方の住所を教えてください、うちからダイレクトメールを発送させていただきたいと思えます。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
安 西 委 員	<p>ありがとうございます。</p> <p>お金が足らんということではありますが、100万円をうたえばいいんですよ。</p> <p>ほんで、10年の分割第1子10万円と一緒にじゃないですか。</p> <p>たとえ10人多く生んでもらっても、100万になるだけのこと、10万円が100万、そうびっくりするほどじゃない、100万円とうたうほうのほうはずっと効果があると思えますがいかがでしょうか。</p>
坂 本 町 長	<p>前向きな御意見で尊重したいというふうに思います。</p>

	<p>ただこれにつきましてははですね、先ほども言いましたように、中長期計画、財政の中長期計画を見ながらですね、6年度から一足飛びにということはちょっと難しいと思いますけれども、次年度以降、皆様の御理解を頂きながら、拡充をしていきたいというふうに思っております。</p> <p>高校生の支援につきましても、この議会での提案が発端となって、今このような予算化もできております。そういった例に倣ってこれからも子育て支援やっていきますので、御理解のほどよろしく願いいたします。</p>
森岡委員	<p>ちょっと2点ばかり企画費の中で委託料、結構いろんな委託にチャレンジされろうとしておられますが、これを、ただ使こうただけでは、困るんですね。まあまあ金額ありますんで全部足せば。その辺で有効に使っていただきたい。</p> <p>それが成果が出るような、政策にやっていただきたいと思っておりますが、2点になるんですが、空き家診断とか、集落点の委託とか、そういうことに関して、町職員でできるんじゃないかなと。</p> <p>深く全部、企画まで、ある程度までできるんじゃないかなと。</p> <p>これなんかこの委託ってなってますんで、ほぼほぼ、委託するのではないかなという考えにしかとれないんで、質問させていただいておりますが、その辺できることは自分らで、まず町長ですよ。1からやっぱやって人を動かさないと意味はない。そう思っておりますんで、その辺についてお聞かせ願ったらと思います。</p> <p>またあと松丸の伊予銀行跡、これの319万円ですか、これの設計委託料か何かになってますけども、これを大体どういう形の、設計委託をこういう金額で、執行されようとしているのか、お伺いしたいと思います。</p>
井上課長	<p>まず空き家診断委託料についてでございますが、これはそれとセットで空き家改修をしていくんですね。</p> <p>空き家改修をする前段で、これは改修に耐えうるかどうかの耐震診</p>

森 岡 委 員

断とか、そういったものを作ってまいります。

ですから、専門家、建築士等の専門家の知見を用するために、空き家診断の委託料というのを計上させていただいております。

2点目、松丸の伊予銀行跡の設計なんです、まちなか交流拠点施設整備事業でのところでも記しているんですが、これまで20回ほどワークショップを重ねて、こういったものにしていきたいなという案がだんだんまとまってきました。

で、外側はほぼいらわないんですが、内側の内装とか、トイレとか、そういった様々な施設設備、そういったところ、あるいは内装の木質化とか、そういったところの設計になります。

工事として発注ができるような体制を整えるための設計になります。

ただ、設計の手法としましては、これまでどおり住民の皆様と一緒にワークショップを重ねながら設計をどんどん積み上げていくっていうところで、ワークショップをやる費用も含めた、実施設計の委託料になることを御承知おき頂いたらと思います。

主には内装とか、トイレとか、そういったところの設計が主になると思います。

まず、ちょうど今言われたその伊予銀行との、ということは、トイレとか、いわゆる水回り辺りをちょっとそこでイベントするために使いやすくするための改造、ただそれだけですか。

ここ伊予銀行跡、これ1,200万やなかったかなと思うんですけども、それだけ費用をかけて購入して、あとお金の入れようですね。

ここを拠点として、松丸住民のワークショップをここを拠点として今後、町の再生を図るか何か、そういう形だったと思いますけども、さあ、果たしてどんなかなと。

あんまり否定して最初からとめるわけにもいきませんので、もう少し先をこの後どうするのと、どうしたいからこのトイレとか、これらの改修がしたいのかっていう、そっちが欲しいんですよ。

<p>井 上 課 長</p>	<p>その先が、先にトイレとかそういうのは改修したりして、その後をするんじゃないんですよ物事。</p> <p>その辺をちょっと説明していただきたい。</p> <p>それと、空き家の診断、これは空き家の診断は耐震化っていうのは、各個人が申請するんじゃないかなかったですか。</p> <p>これ、ちょっとその辺がちょっと分からないんですがお金の出し方というか、その辺説明していただいたら。</p> <p>予算の中でですね、まず空き家診断の分なんですけど、空き家活用移住者住宅整備補助金という300万円のやつがあるんですけど、これは、よそからその家を借りて住む際に、空いてる家に入るわけですから少し改修をしたいなというときに補助金を交付する仕組みです。</p> <p>空き家が耐震基準に満たされているかどうか。</p> <p>そういったことをあらかじめ調べて、耐震、地震に耐えられない耐えられない住宅だと、この補助金はもらえないということになってますので、まず、この建物が耐震基準を満たしているかどうかっていうのを診断した後やないと、この補助金の採用になりませんので、この補助金とセットに考えていただいたらと思います。</p> <p>したがいましてその耐震診断を役場の職員でやるっていうのは、なかなかちょっとノウハウも有しませんので、専門家に委託をせんといけんということになっておるところです。</p> <p>次に、伊予銀行の跡なんですけど、これまで20回住民の皆さんが集まってるいろいろとお話をしていただいた結果、ある程度こういった活用したいっていうラインは見えてきました。</p> <p>それはやっぱりちっちゃなお子さんを持つ方がやっぱり目立って増えてきておりますので、そういった方の集まる場所、そしてそこに高齢者も集まれる場所、そこで世代間が交流できる場所、そういったところを伊予銀行でつくっていきたいというような意見がどんどんまとまってきております。</p> <p>ただ、これからもまだ、ワークショップする中でさらにこういった</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>森岡委員</p>	<p>機能も欲しいとか、新たにこういった活動もしたいっていう話も出るかもしれませんが、今現時点のところでは、そういった子育て最中のお母さんやお父さん方が集まれる場所、そしてそこに、高齢者も集まって世代間交流、おじいちゃんおばあちゃんがいない世帯においても、地域の高齢者が役割を果たしていただけるような交流の場所、そういったものがあればいいなという話で、今話ができてつつあります。</p> <p>それには、高齢者から小っちゃい子供まで、トイレやったらこういった形がいいなとか、そういったところ専門家のお知恵を入れながら設計に反映させていくっていうところが、今の状況でございます。</p> <p>先ほどの空き家の分は、これ民間の方の、例えば私がここ空いとるんでここ、その移住者に使っていただけませんかというような形の、場面があった場合に、違うんですかね、例えば松野町に10戸なら10戸空き家があつて、それが役場職員が見て、それを町の移住者に使わせてもらえるのかというものなのか。</p> <p>逆に、持ち主が松野町に使っていただけませんかと言われたのか、言われるのか、どっちなんやろかと。</p>
<p>井上課長</p>	<p>持ち主の方が頼むことになりますので、その流れですね、詳しい流れを担当のほうから説明させます。</p>
<p>土居課長補佐</p>	<p>今ほどの事業なんですけど空き家活用移住者住宅整備補助金になりますけども、これは町内に空き家をお持ちの持ち主の方が将来的に移住者に活用してほしいというときに、現状では修繕が必要だということで、修繕を求める場合、その補助金を出します。</p> <p>そして、そのときにですね、例えば屋根がもう抜けてたり、床が抜けてたり、構造的にですね、改修しても効果のないような家は、補助金を充てることができないということで、空き家を移住者に貸したい持ち主が申請したときに、空き家を診断する。そういった空家診断委託料になってます。</p> <p>そしてですね、まずはきれいな空き家を作って、それから空き家バンクでPRして、きれいな空き家ありますねということで移住者を呼</p>

<p>森岡委員</p>	<p>び込むという施策になっております。</p> <p>詳細は以上です。</p> <p>ようやく分かりました。</p> <p>それでは、委託料の話になりますが、効率の上がる委託の仕方、できる限り、私は町職員がやっぱ足を運んで、その現状を見て、どうしたいのか、その辺を自分の中で企画立案していただきたいと思いますが、できることはで。</p> <p>またこの、伊予銀行跡の分に関しては、いわゆる確かにこの近所には子供さんが小さい子供さんがおられます。</p> <p>10年したら、おられないんですよ。</p> <p>だから問題は、10年向こうにここに、やはり変わらず、子供さんが、おられる施策をせにゃいけんのやないかなど。だから、1個で終わるんじゃないんですよと。</p> <p>そこは私が言いたいところなんで、これ以上言いませんがもう少し知恵を絞った企画を練っていただきたいと思います。</p>
<p>井上課長</p>	<p>森岡委員さんの最後におっしゃったことは当然それが1番大事なところですよ。</p> <p>こういった施設ができると、また、お子さんがいる世帯が、来たりとかですね、子育てしてみようかなと思う方も増えると、その要因になると思います。</p> <p>そしてこの施策だけじゃなくて、全ての今回、企画費で上げている分は、人を呼び込む、子育てをしやすくなる、そして人口減少のスピードを抑えるっていう、施策全て連動しているものと私たち考えております。</p> <p>歩みをとめることなく、人口減少のスピードを緩やかにしていくっていうことを取り組んでまいりたいと思いますそれにはいろんな専門家の方の知恵も知見を取り入れながらやっていきたいと思いますので、また議員の皆様におかれましても、どしどしと御指導頂ければと思います。</p>

山石委員長

ありがとうございます。

他にありませんか。

質問が無いようであれば、採決に移ります。

ただいま審査しております、議案第12号について、原案のとおり御承認いただけますか。

(異議なしの声)

山石委員長

賛成全員です。

したがって、当委員会は、議案第12号「令和6年度松野町一般会計予算」、ふるさと創生課所管分については原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年5月2日

松野町議会総務常任委員会委員長 山石 恭助